

8811 ロンドンからは、エコノミークラスに移った。

ロンドンからは、エコノミークラスに移った。私の座席の右側に坐った男性はパキスタン人であった。二十八歳の若さだが、テント地などの輸出を手掛けているのだという。「たとえば、パンを二つ与えられても、私はイギリスやアメリカには住みたくない。半分のパンでも私はパキスタンにいる。機会があったら、ぜひ一度、私の国へこないか。きっと素晴らしい人たちに会おうだろう。とくに北のほうがいい。パキスタンは豊かではないが、いい文化、いい宗教がある」

ひとしきりお国自慢が続いた。

本田靖春『新・ニューヨークの日本人』

#### [許容訳例]

At London, I moved to an economy class seat. The man who sat on my right was a young Pakistani, who said he was twenty-eight years old and handled the export of tent materials. "Even if I were given twice as much bread as I am now," he said, "I wouldn't like to go and live in England or America. Even if I could earn only half as much, I wouldn't leave my own country. Won't you come to my country, if you get the opportunity sometime? I assure you that you will meet some fine people there. I recommend you especially to visit the northern part of the country. Pakistan is not a rich country, but it has a splendid culture and the people are very religious." For some time he continued to sing the praises of his country.

#### [翻訳例]

At London, I moved into the economy class. The man who came and sat on my right was a Pakistani. A young man of twenty-eight, he told me he was engaged in the export of tent canvas and the like. "I wouldn't want to live in England or America, even if they doubled my salary," he said. "I'd stay in Pakistan, even on half pay. You really ought to come to my country sometime if you get the chance. I'm sure you'd meet some fine people. Particularly in the north. Pakistan isn't a rich country, but it has a good culture and a good religion." For some time he went on singing the praises of his own country.

■ロンドンからは、エコノミークラスに移った。(8811)

★「ロンドンからは」は at London です。こういう場合 from は使いません。

★「エコノミークラスに移った」は moved into [to] an economy class seat [the economy class] ですが、an economy class seat は「economy class という部類の一つの seat」ですし、the economy class は「economy class という部類」という感じです。それから moved の代わりに swiched とか、あるいは同じ機内で席を変えたのなら shifted を使ってもいいし changed もいいでしょう。辞書には transfer も出ていますが、これは一応誰かに頼んでちゃんと手続

きをふんでそうしたという感じになります。

■私の座席の右側に坐った男性はパキスタン人であった。(8811)

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(私の座席の右側に坐った男性)

「私の座席の右側に坐った男性」は「連体修飾節(私の座席の右側に坐った)＋体言(男性)」ですから、英語では「名詞(the man)＋関係詞節(who sat (down) …)」ですが、「坐った」が難しい。「自分のあとから坐った」のなら、それをはっきりさせるために came and sat to [on] my right がいいでしょうし、「すでに坐っていた」のであれば、the man (sitting) in the seat です。

★「パキスタン人であった」は is a Pakistani です。

■二十八歳の若さだが、テント地などの輸出を手掛けているのだという。(8811)

★「二十八歳の若さだ」は he was twenty-eight years old でもいいですが、「～の若さ」の感じを出すには he was a young man of [only] twenty-eight とするといいでしょう。

●[が] → [で] (and)

「二十八歳の若さだ [が], …」は、「(わずか) 二十八歳の若さ [で], …」と言い換えの出来る [が] で、英語では and で対応することになります。

★「テント地」は tent canvas [material; cloth] です。辞書には「(生) 地」に texture と出ていますが、これはきめが粗いとか細かいとかいう場合に使う言葉で生地そのものには使いません。

★「など」は and the like を加えるといいでしょう。なお、materials と複数にして、綱のような生地以外のものも含ませてもいいです。

★「～の輸出を手掛けている」は handle [be engaged in] the export of ~ です。deal in は、普通は、たとえば、deal in used cars (中古車を商う) のように、次に物がきますが、ここで使ってもそれほどおかしくはありません。

★「…のだという」は he said [he told] … です。

●「…が、…だという」の処理

「二十八歳の若さだが、テント地などの輸出を手掛けているのだという。」は「二十八歳の若い彼が、テント地などの輸出を手掛けているのだという」と言い換えていい文脈です。そうすると「二十八歳の若い」は特定代名詞「彼(he)」を修飾する「連体修飾節」ということになります。その場合、英語では分詞構文にして前置します。たとえば「朝七時に起きた僕は顔を洗って…」は Getting up at seven o'clock, I washed my face, … のように処理します。ここも Being a young man of twenty-eight, he said … と処理できます。さらに、A young man of…, he said… と分詞をはずして同格的にすると英語らしくなります。

■「たとえば、パンを二つ与えられても、私はイギリスやアメリカには住みたくない。(8811)

★「たとえば」は、すぐ次に喩えが出てくるので訳す必要はありません。

★「パンを二つ与えられても」は even if I were given twice as much bread as I am (given) now でもいいですが、この「パン」は「生計の糧」ということですから even if my salary

were doubled でもいいし、even if you [they] doubled my salary でもいいですし、「二倍稼げる」として、even if I earned twice as much as I do now でもいいです。なお、now はなくてもいいのですが、I do だけだとイントネーションに注意が必要です。

★「私はイギリスやアメリカには住みたくない」は、I wouldn't want to live in England or America にすると英語ネイティブでない英語の感じが良く出ます。もちろん、wouldn't want to は wouldn't like to に変えてもかまいません。大人のネイティブの英語になります。

■半分のパンでも私はパキスタンにいる。(8811)

★「半分のパンでも」は、上の表現を利用すれば、even on half pay とか、even if I could earn only half as much などとなるでしょう。辞書には earn one's bread という表現があります。これを利用すると earn only half of my bread などとすることができそうですが、earn one's bread は earn one's living という抽象的な意味での決まった表現なので、勝手に変えて使うのは無理とされます。

★「私はパキスタンにいる」は I'd stay in Pakistan. です。「残る」という意味が加わってしまいますが stay の代わりに remain も使えます。また、前の「私はイギリスやアメリカには住みたくない」を I wouldn't like to go and live in England or America としたなら I wouldn't leave my own country とすることも出来ます。

■機会があったら、ぜひ一度、私の国へこないか。(8811)

★「機会があったら」は if (sometime) you get the opportunity [chance] でしょう。「機会」ですが、次の「ぜひ一度」に引かれて an opportunity [a chance] にすると to come を付けることになります。the にすると不要です。こういうところで定冠詞の便利さがよくわかります。なお、get の代わりに gain を使うと「努力・苦勞して得る」つまり「獲得する」という感じですから、ここでは無理でしょう。また as opportunity permits は、ここで使うには堅すぎます。

★「ぜひ一度、私の国へこないか」の「こないか」は why don't you come…? が英語としては普通の言い方ですが、ここは「ぜひ」が入っているので you really ought to come… とすると原文の感じが良く出ると思います。なお、once はここでは不要です。この「一度」は回数の問題ではなく「まず一度だけでもいいから」という感じなので really ought to に含まれていると思います。

■きっとすばらしい人たちに会おうだろう。(8811)

★「きっと・・・だろう」は I'm sure… とか I assure you that… です。

★「すばらしい人たち」は some (very) fine people でいいでしょう。「すばらしい」は、辞書にはいろいろ出ています。attractive は、普通、容姿・容貌に使う場合が多く、結局、「きれいだ」、つまり sexually attractive という場合が多いです。ただ、場合によっては精神的、性格的にいい人、という意味で使うこともありますから、使って間違いとは言えませんが、やはり避けた方がいいでしょう。wonderful とか marvelous は女性の言葉というか、特にアメリカのお婆さんなどが使う言葉です。

★「出会う」は meet でしょう。meet with も使えます。これは特にあちこち回っているうちにそういう機会に出っくわすという意味で、ここでもぴったりかも知れません。そうすると come across も使えます。see はただ会うだけで話したりすることは入りませんから、「すばらしい」に attractive を使う場合なら see some attractive people のように使えます。

■とくに北のほうがいい。(8811)

★「とくに北のほうがいい」は丁寧にすると I recommend you to visit especially the northern part of the country.とか That is particularly true of the north ですが、ここは Particularly in the north でいいでしょう。「とくに」には above all はちょっと強い感じもしますが、使えます。

■パキスタンは豊かではないが、いい文化、いい宗教がある」(8811)

★「パキスタンは豊かではない」は Pakistan is not a rich country.か、Pakistan is not rich.でもいいでしょう。rich の代わりに wealthy も使えます。

●[が] (逆接)

この[が]は「A であるが B」ですから「逆接」で but です。

★「いい文化」は a splendid culture と不定冠詞を付けます。この場合の文化(culture)は the culture of a particular nation とうこと、つまり Pakistan has a splendid example of that kind of culture という意味なので不定冠詞を付けた方がいいです。

★「いい宗教がある」は it has a good religion とか、主語を変えて the people are a very religious でしょう。

●主語を揃える

「パキスタンは豊かではないが、いい文化、いい宗教がある」は、正確には「パキスタンは豊かではないが、パキスタンには、いい文化、いい宗教がある」で後半の主語は「文化、宗教」ですが、この非英語国の青年の発言として、Pakistan is not rich, but it has a good culture and a good religion.とするのが適当ではないかと思われます。

■ひとしきりお国自慢が続いた。(8811)

★「ひとしきり」は「かなりの間」というニュアンスですから for some time です。この some は considerable と同じ意味となります。なお、for a while は、ちょっと消極的で、「まだしばらく」という感じです。

★「お国自慢が続いた」には sing the praises of ~というイディオムを使うといいです。つまり、he was singing the praises of his own country です。「自慢する」には boast という動詞がありますが、これはかなり嫌な感じを伴う言葉ですから避けた方がいいでしょう。